

普及活動情勢報告（令和元年7月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

高知県園芸品生産予測システムを周知していこう！ ～令和元年度第1回安芸地区環境制御技術普及推進PT会～



意見交換を行う普及課職員と
JA営農指導員

6月25日、JA安芸営農経済センターで第1回安芸地区環境制御技術普及推進プロジェクトチーム会（以下、PT会）を開催し、農業改良普及課職員とJA営農指導員の18人が出席しました。

農業改良普及課からは、環境制御技術普及推進事業の進捗や推進上の課題を報告しました。また、本年3月より開始した園芸品生産予測システムについて、「導入拡大のために各集出荷場で生産者に周知しよう」、「導入のメリットを生産者に理解してもらおう」等の意見を担当者間で共有できました。このPT会では環境制御機器の指導のための勉強会も行い、炭酸ガス発生機の使い方やメカニズムについて、メーカー担当者や導入生産者を交え意識統一を行いました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して環境制御技術や生産予測システムのさらなる普及に努めます。

酒蔵さん、今年こそはえい酒米つくるき！！ ～東川酒米研究会 現地検討会～



まだ復旧できていない水田を
見つめる所長と普及員

7月2日に、東川酒米研究会が酒米「吟の夢」の現地検討会を開催し、生産者9人が参加しました

昨年の西日本豪雨による被災から復旧した水田での栽培でもあることから、農業改良普及課は、生育状況を確認し、順調に生育していることを部会員に周知しました。

生産者からは、「油断はできないが、今年はしっかり酒米を作って酒屋さんに納められるようにしよう」といった声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後もJAと連携して現地巡回や現地検討会などを通じて酒米品質の向上に努め、産地振興に取り組みます。

黒枯病は「湿度制御」で防除しよう！ ～安芸支部園芸部園芸研究会ナス分科会～



ナス黒枯病防除の実証試験結果
について報告する職員

7月5日、JA高知県安芸集出荷場会議室で安芸支部園芸部園芸研究会ナス分科会を開催し、生産者20人が出席しました。

農業改良普及課は、安芸市高台寺・一ノ宮地区で実施した湿度制御による病害防除の取り組みの成果として、ハウス内を除湿暖房をすることで黒枯病の発病を抑えられることを報告しました。

生産者からは、「湿度制御で重油使用量は増えるけど、その分病気が抑えられるなら良いね。」といった声がありました。

農業改良普及課は、今後も増収や品質向上を目指した「病害版IPM」の実証試験に取り組み、その結果を部会や勉強会を通して周知していきます。

ユズのモデル園をバージョンアップ!! ～柚子部吉良川支部～



「みんなちゃんと
見てくれるかな～」

農業改良普及課室戸支所は、柚子部吉良川支部のユズのモデル園にJA営農指導員と協力し、梅雨入り前に設置した簡易雨量計を使って黒点病防除の基準情報を発信するにしました。また、栽培技術情報等を知らせるための掲示板を設置し、芽かきや摘果等の「7月のユズの栽培管理」情報を掲示しました。

農業改良普及課室戸支所は、今後もJAと協力し、モデル園の掲示板情報と簡易雨量計のデータを活用して秀品率の向上となるように指導します。

環境制御技術の普及拡大に向けて ～令和元年度 安芸地区環境制御普及推進会議～



現地実証結果を報告する
農業改良普及課職員

7月11日、JA安芸営農経済センターで安芸地区環境制御普及推進会議を開催し、47人（うち生産者8人）が出席しました。

農業改良普及課は、管内の環境制御機器の導入状況や、平成31園芸年度の環境制御による現地実証結果3事例を発表しました。

生産者からは、「産地の底上げや環境制御の効果を上げるためには土台となる栽培管理方法の周知が大事ではないか」、「各農家の労働力や規模に応じた最適な環境制御の導入コストが知りたい」などの意見が出され、環境制御技術の普及拡大のためには基本技術の徹底や経営モデルの確立が必要であるという課題が見えました。

農業改良普及課は、本会議での意見を生かし、今後も環境制御技術の普及拡大に努めます。

今年の穂肥はいつもどおりでえいろうか？ ～東川酒米研究会 現地巡回と穂肥検討会～



「なかなか梅雨が
明けんで困るの～」

7月19日に、東川酒米研究会は酒米「吟の夢」の現地巡回と穂肥の検討会を開催し、生産者10人が参加しました。

農業改良普及課からは、現地では各ほ場の生育や病害虫の発生状況などを確認しました。その後、事前にJAと調査した各農家の生育結果を基にした穂肥の施用方法、生育が旺盛であったことから倒伏に注意するように指導しました。

生産者からは、「カメムシに効果が高い薬剤は何やる？」、「今年は倒伏にも気をつけよう」といった声が聞かれ、品質に対する意識が向上しました。

農業改良普及課は、今後もJAと連携して現地巡回や現地検討会などを通じて酒米品質の向上に努め、産地振興に取り組みます。